

株主の皆様へ

フジ・メディア・ホールディングス レポート

第70期 中間報告書

平成22年4月1日から平成22年9月30日まで

INTERVIEW

豊田皓社長が語る

フジ・メディア・ホールディングスの今後の見通し

TOPICS

視聴率三冠王堅持!! 3D映画やイベント「コルテオ」も好調。
グループ各社も費用改善効果で収益UP!

特集 キーパーソンに聞く!

フジテレビの“組織改革”にグループ成長の鍵が!

CSR 通信 vol.8

食育プロジェクト「いっぽんどっこの会」を各地で開催中!

株主優待のお知らせ

オリジナル手帳にお得なクーポンがつかえました!

 FUJI MEDIA HOLDINGS, INC.

証券コード：4676



代表取締役会長
(Chairman & CEO)

日枝 久

代表取締役社長
(President & COO)

豊田 皓

メディア・コンテンツ産業の リーディング・カンパニーとして

株主の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。日ごろは格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

当社及び当社グループは、放送事業を中核としたフジ・メディア・ホールディングス体制へ移行して2年が経過しました。グループの中核である放送事業を中心としてグループ内の積極的な事業連動と多様な媒体の活用を通じて、ソフト・コンテンツの価値及び収益を最大化することに努めてまいりました。

ここ数年メディア業界は、経済環境の悪化に伴う広告市況の低迷など、厳しい事業環境の下に置かれています。そのような中、グループのガバナンスを強化し、各社におけるコスト管理の徹底を図り、

外部環境の変化に適応できる強靱な企業体質を構築するための努力をしてまいりました。その結果、当上期は放送事業、映像音楽事業等が好調に推移し、グループ全体として的大幅な増益を達成することができました。フジ・メディア・ホールディングス体制による様々な施策が功を奏し、着々とその成果を挙げてきております。

今後もメディア・コンテンツ産業のリーディング・カンパニーとしてトップの地位を磐石なものにしつつ、総合情報産業として、新しい時代の変化に柔軟に対応し、グループの企業価値を高め発展させ、株主の皆様のご期待に応えるべく努める所存です。

何とぞ、これからも当社グループに対して倍旧のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成22年12月

01 ごあいさつ (P1-2)

02 豊田皓社長インタビュー (P3-4)

03 連結業績ハイライト (P5-8)

04 トピックス (P9-12)

05 特集 キーパーソンに聞く！ (P13-14)

06 CSR通信 Vol.8 (P15)

07 会社概況／株主優待のお知らせ (P16)

08 株式情報 (P17-18)



フジ・メディア・ホールディングスの今後の見通し

変動する経済環境のなか、フジ・メディア・ホールディングスは今後どこへ向かうのか？何をめざすのか？ 当社代表取締役社長 豊田皓が語ります。



代表取締役社長
(President & COO)

豊田 皓

平成23年3月期上期の業績の概要をご説明ください。

先行き不透明な景気動向が続いておりますが、主力の放送事業では(株)フジテレビジョンが大幅増益となり、映像音楽事業においても(株)ポニーキャニオンが大幅増益となり、さらに生活情報事業が黒字化したことにより、上期業績は増収大幅増益を達成することができました。その結果、連結売上高は前年同期比4.4%増収の2,932億63百万円、営業利益は前年同期比325.8%大幅増益の116億58百万円、当上期の純利益も前年同期比101.1%大幅増益の60億81百万円となりました。

主力の(株)フジテレビジョンの業績をご説明ください。

スポットセールスが好調に推移して前年同期を上回るなど、テレビ広告市況は回復傾向にあり、当上期の放送収入は前年同期比1.4%の増収となりました。また、当上期も番組視聴率トップを堅持し、7期連続の上期「三冠王」を達成することができました。映画やイベントなどのその他事業においては、映画「踊る大捜査線 THE MOVIE 3 ヤツらを解放せよ！」の大ヒット、夏の新イベント「ウォーキング・ウィズ・ダイナソー」

が大成功となるなど前年同期比5.7%の増収となりました。

その結果、当上期の業績は、売上高は1.9%増収の1,670億10百万円、営業利益は205.9%大幅増益の95億43百万円となりました。

フジ・メディア・ホールディングスグループの今後の見通しについて教えてください。

グループの主力である(株)フジテレビジョンでは、スポットセールスが回復基調となり、またタイムセールスも底打ち感が出てきていることから、広告収入の回復への期待が高まりつつあります。その中で、強力なコンテンツを核として視聴

率トップの座を堅持し、放送収入の拡大をはかり、権利ビジネスなどの付随的ビジネスで更なる躍進を目指します。イベント事業においてはシルク・ドゥ・ソレイユとの共同公演「クエザ」を予定しており、映画事業では三谷幸喜監督脚本の「ステキな金縛り」をはじめ多くの話題作を用意しております。さらに、番組配信事業やゲーム事業、海外事業などで新たな収益源開発のための積極的なチャレンジを行ってまいります。

通信販売を主力とする生活情報事業では、(株)ディノス、(株)セシール両社の統合効果が徐々に現れてきました。収益拡大のための様々な統合の準備も着々と進めており、今後の更なる業績への貢献に期待しています。また映像音楽事業の(株)ポニーキャニオンも、当上期の好調な業績の勢いを減速させることなく、映像作品・音楽作品のラインナップの強化を図り収益の拡大を目指します。これら生活情報事業、映像音楽事業を放送事業に次ぐ第二の柱として収益力を強化し、他のグループ事業を含めたグループ全体での成長を促してまいります。

また来年4月には(株)ビーエスフジを完全子会社化する予定となっております。既に視聴可能世帯が3,000万を超え、BS放送における広告市場も順調に伸びており、収益への貢献に期待しています。

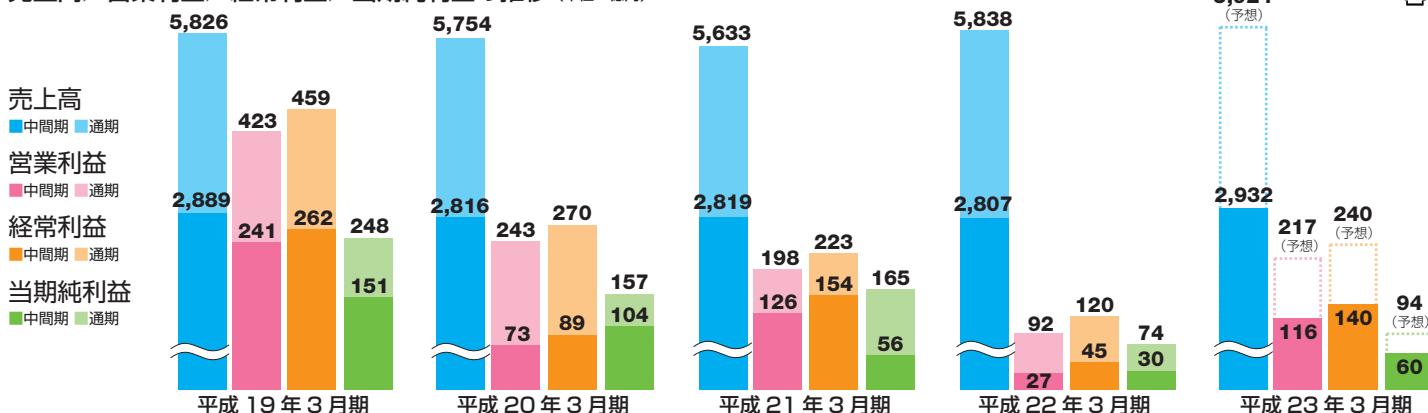
03 連結業績ハイライト

当社の財務情報はホームページでもご覧いただけます。

フジ・メディア・ホールディングス

検索

売上高／営業利益／経常利益／当期純利益の推移 (単位：億円)



売上高について

放送事業では、メインの㈱フジテレビジョンでスポット収入や映画事業が牽引役となり、連結売上高は増収となりました。

前年7月からグループに加わった㈱セシールは、当上期は連結期間が6ヶ月と延びて、連結売上高は増収となりました。

損益について

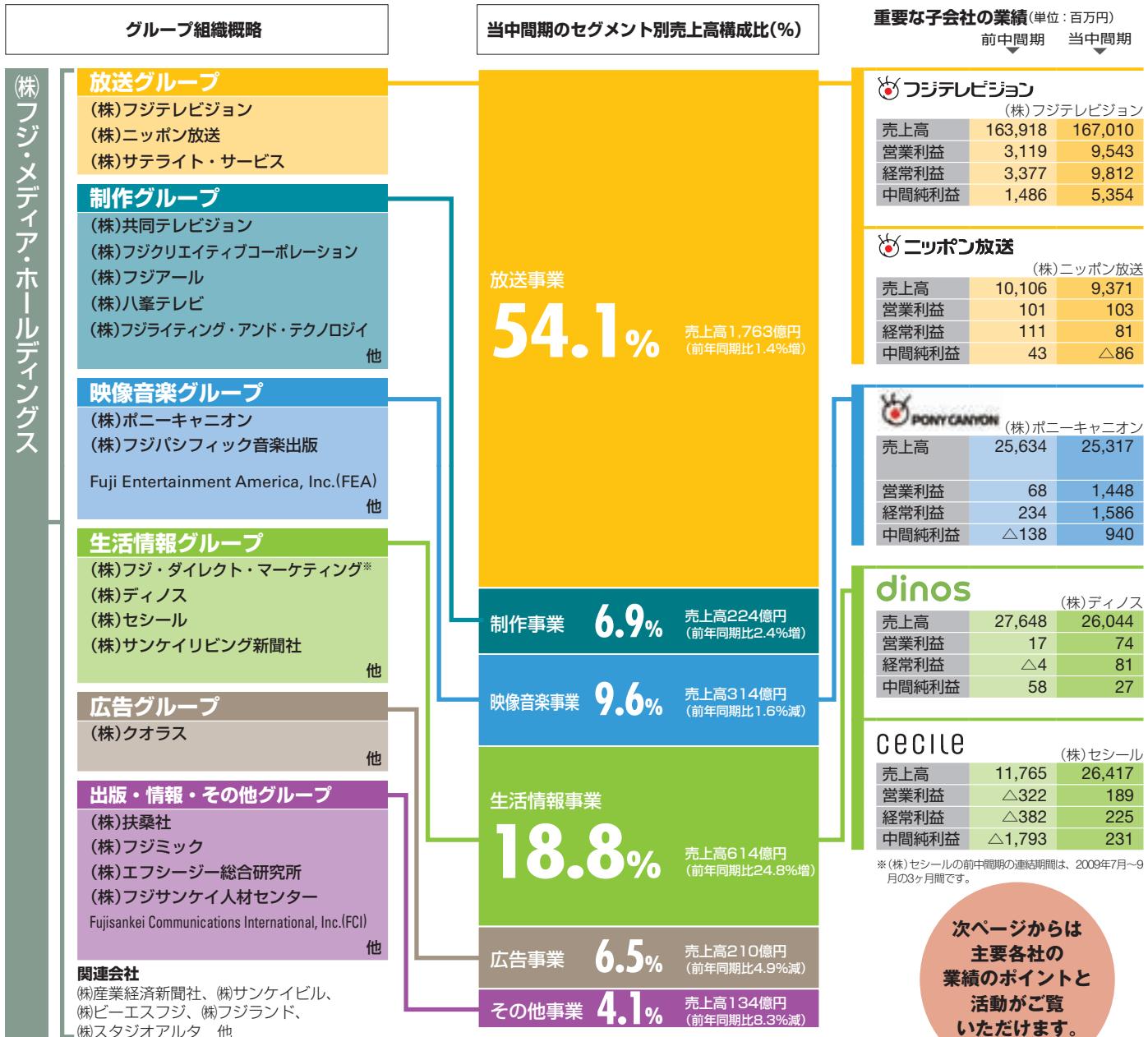
放送事業は増収であり、更に番組制作費等の放送事業原価の削減効果もあって、大幅増益となりました。映像音楽事業はCDの不調などで減収となりましたが、営業費用の削減によって減収分をカバーして、増益となりました。生活情報事業は、セシールの連結期間の増加と共に費用削減にも取り組み、利益的にも増益となりました。広告事業は、取扱い出稿高が減少して減収となり、利益的にも営業損失を計上しております。

以上の結果、営業利益、経常利益、当期純利益は増益となりました。

	平成19年3月期		平成20年3月期		平成21年3月期		平成22年3月期		平成23年3月期	
	中間期	通期	中間期	通期	中間期	通期	中間期	通期	中間期	通期(予想)
業績データ (億円)										
売上高	2,889	5,826	2,816	5,754	2,819	5,633	2,807	5,838	2,932	5,924
営業利益	241	423	73	243	126	198	27	92	116	217
売上高営業利益率(%)	8.3	7.3	2.6	4.2	4.5	3.5	1.0	1.6	4.0	3.7
経常利益	262	459	89	270	154	223	45	120	140	240
当期純利益	151	248	104	157	56	165	30	74	60	94
財務データ (億円)										
総資産	6,952	7,314	6,956	6,770	6,739	6,835	7,237	7,531	7,384	
流動資産	2,691	2,830	2,638	2,535	2,570	2,943	3,113	3,446	3,463	
固定資産	4,260	4,484	4,317	4,234	4,169	3,891	4,123	4,085	3,921	
負債	2,280	2,619	2,321	2,209	2,164	2,301	2,620	2,890	2,795	
流動負債	1,170	1,505	1,286	1,154	1,102	1,216	1,394	1,558	1,479	
固定負債	1,109	1,113	1,035	1,054	1,062	1,085	1,225	1,331	1,316	
純資産	4,671	4,695	4,634	4,560	4,574	4,533	4,617	4,641	4,588	
キャッシュ・フロー (億円)										
営業活動によるキャッシュ・フロー	350	607	69	253	382	847	27	186	236	
投資活動によるキャッシュ・フロー	△195	△182	△192	△414	△147	△367	△27	△308	△515	
財務活動によるキャッシュ・フロー	△39	△90	△59	△93	△51	△94	7	253	△99	
現金及び現金同等物の残高	823	1,043	862	801	976	1,165	1,179	1,280	900	
1株当たりデータ (円)										
1株当たり当期純利益	6,617.26	10,811.13	4,543.45	6,847.60	2,456.35	7,193.40	1,312.82	3,238.69	2,640.63	4,081.46
1株当たり純資産	198,927.93	201,008.38	198,857.04	195,967.51	196,535.60	194,864.16	197,829.43	199,432.99	197,216.11	
1株当たり配当金	2,000.00	3,000.00	1,800.00	1,800.00	1,800.00	1,800.00	800.00	800.00	800.00	800.00

グループアウトライン

認定放送持株会社(株)フジ・メディア・ホールディングスのグループは、6グループ21社の中核子会社で構成されています。(株)フジ・メディア・ホールディングスは事業面で緊密な関係を有する関連会社をはじめ、フジサンケイグループ各社と事業・文化活動において更に連携を強めてまいります。



* (株)ディノスと(株)セシールを統括する中間持株会社(平成22年4月1日設立)。



ここからは、主要各社の業績と活動を振り返ってご紹介いたします。

フジテレビジョン

(株)フジテレビジョン



売上高
167,010百万円
(前年同期比1.9%増)

業績のポイント

放送収入はスポット収入が伸びて増収となり、放送外収入では映画事業で「踊る大捜査線 THE MOVIE 3 ヤツらを解放せよ！」等がヒットして増収となりました。

一方、営業費用は効率的なコストコントロールにより減少し、営業利益は増益となりました。



営業利益
9,543百万円
(前年同期比205.9%増)



「めざましテレビ」



視聴率三冠を堅持!! “新たな挑戦”でトップを走り続けます

フジテレビは、平成22年の上期において、ゴールデン(19~22時)、プライム(19~23時)、全日(6~24時)の時間帯で、いずれもトップの視聴率を獲得しています。

また、平成22年の秋の改編では、バラエティ・ドラマの新番組を続々と登場させ、テレビの未来を創造するための“新たな挑戦”をしています。さらに、「FNNスーパーニュース」や10月から新しいキャスター陣となった「めざましテレビ」などの報道・情報番組も高視聴率を続けているほか、10月12日に放送したサッカー日韓戦は、26.8% (関東地区)を獲得するなど、ますます他局を圧倒しています。

6年連続年間視聴率三冠王の勢いをそのままに、これからもより視聴者の皆様に愛されるテレビ番組を作り続けてまいります。



「THE LAST MESSAGE 海猿」
©2010 フジテレビジョン ROBOT ボニーキャニオン 東宝 小学館 エー・チーム FNS27社



超大型作品が大ヒット！ バラエティに富んだ作品群が話題に

平成22年上期のフジテレビ映画は「のだめカンタービレ 最終楽章・後編」(興行収入37億円)、「踊る大捜査線 THE MOVIE 3 ヤツらを解放せよ！」(興行収入73億円)、フジテレビ初の3D大型作品「THE LAST MESSAGE 海猿」(興行収入74億円*10月末日現在)などの超大型作品が大ヒットを記録しました。

またバラエティ番組発の映画「矢島美容室」や、久々の本格時代劇となる「座頭市 THE LAST」、アニメーション作品の「カラフル」といった個性豊かな作品が大きな話題をよびました。



「ウォーキング・ウィズ・ダイナソー」
Photography by Joan Marcus copyright CPC 2008



各種イベントが好評開催！引き続き充実の ラインナップで展開してまいります

シルク・ドゥ・ソレイユ「コルテオ」は仙台公演を最後に全ての公演を終え、ショーの内容・収益とも大成功を収めました。2月からは夢のスーパーサーカス第9弾、「クーザ」東京公演が控え、券売も好調に推移しています。どうぞご期待ください。

また、精密に作られた恐竜ロボットが全国のアリーナを動き回る「ウォーキング・ウィズ・ダイナソー」は、チケット入手が困難な超人気イベントとなりました。

さらに、有名シェフとパティシエ12名がプロデュースした食事とサーカスを豪華に楽しむ「ルナ・レガーロ」も東京公演で好評を博し、続いて大阪・名古屋公演へ展開していきます。

ニッポン放送

(株)ニッポン放送

売上高

9,371百万円
(前年同期比7.3%減)

営業利益

103百万円
(前年同期比1.8%増)

業績のポイント

物販収入は微増収となりましたが、放送収入、イベント興行収入は減収となりました。営業費用についてコスト削減に努め、営業利益は微増益となりました。

6月に番組編成。イベントも好調

6月に番組改編を行い、「高嶋ひでたけの朝ラジ!」「上柳昌彦 ごごばん!」「徳光和夫 とくモリ!歌謡サタデー」をスタートしました。8月には「アイドル ユニットサマーフェスティバル



「アイドル ユニットサマーフェスティバル 2010」

2010」を開催。SKE48ほか旬なアイドルユニット4組が一堂に会するという大イベントとなり、大成功を収めました。

PONY CANYON

(株)ポニーキャニオン

売上高

25,317百万円
(前年同期比1.2%減)

営業利益

1,448百万円
(前年同期比2,025.5%増)

業績のポイント

アニメ部門の収益が「けいおん!!」のヒットで大幅伸長。映画部門は「ワンピース」のヒットで収益が大幅改善。映像部門も、依然、韓流ドラマが強く収益確保に貢献しました。

アニメ部門などの大ヒットで収益増に

当上期もアニメ「けいおん!!」関連の音楽・DVDが引き続き大ヒット。aikoのアルバム「BABY」が3月末に発売。韓国DVDでは、フジテレビ韓流αで放映された「華麗なる遺産」、イ・ビョンホンのアクションドラマ「アイリス」も好調。8月末には「ワンピースフィルム ストロングワールド」がDVD発売し大ヒット。当上期の大きな収益増につながりました。



「ワンピースフィルム ストロングワールド」
©角田栄一郎/集英社・フジテレビ・東映アニメーション
©「2009 ワンピース」製作委員会

dinos

(株)ディノス

売上高

26,044百万円
(前年同期比5.8%減)

営業利益

74百万円
(前年同期比321.3%増)

業績のポイント

カタログ通販はファッション系が好調に推移しましたが、他事業の減収幅をカバーできず、減収になりました。営業利益は費用改善効果で増益となりました。

ファッションを中心にカタログ復調傾向

カタログ通販は、ファッション系を中心に好調に推移しました。特に「ダーマ・コレクション」創刊20号ではコース・マーケティングを取り入れ、事業と社会貢献を両立させました。効率化したリビング系『ディオス・ウィズ』も堅調でカタログは復調傾向、調理用品などで新たなヒット商品も生まれました。



「ダーマ・コレクション」

cecile

(株)セシル

売上高

26,417百万円
(前年同期比6.0%減)

営業利益

189百万円
(前年同期比 -%)

業績のポイント

異常気象による天候不順などの影響で減収となりました。利益面では、カタログやDM発送費などのコスト低減活動が奏功し改善しました。

*前年4月～9月の実績と対比しています。

ムックが「宣伝部長」に就任! 『Smart Heat』シリーズ発売

昨年発売以来、大変好評を博した、保温・発熱素材を使用した機能性衣料「Smart Heat (スマートヒート)」シリーズの2010年バージョンが機能やアイテムを強化し、9月1日より発売され、その宣伝部長にフジテレビの子ども番組「ひらけポンキッキ」から誕生した人気キャラクター「ムック」が就任しました。



ムックの「Smart Heat」宣伝部長任命式

その他の各社の状況

Quaras

(株)クオラス

「コミュニケーションの仕掛けづくり!」

クオラスは、お客様企業が伝えたメッセージを、しっかりと伝えていくために、テレビCM等の広告展開に加えて、エンタテインメント性の高いイベントの実施や、アーティストやコンテンツ等とのタイアップ展開、TwitterやiPhoneアプリ等をはじめとするWEBやモバイル企画との連動等、様々なコミュニケーションの仕掛けづくりを展開しています。上海万博で行われた経済産業省主管のコンテンツフェスティバル「Co Festa IN SHANGHAI」では、総合的な制作進行管理を担当しました。

WWW INTERNATIONAL CONTENTS FESTIVAL 2010



「Co Festa IN 上海」

扶桑社

(株)扶桑社



「momチャンドダイエット プレミアム」

上期に2冊のベストセラーを刊行!!

当上期は、6月に出版した「momチャンドダイエット プレミアム」(チョン・ダヨン著)が43万部、5月出版の『スポーツ速読完全マスターBOOK』(呉真由美著)が12万部と、2冊のベストセラーが生まれました。下期にも期待できる書籍が続々登場予定です。来年は看板雑誌の「ESSE」が創刊30周年を迎えます。この勢いで盛り上げていきたいと思っています。

1 大多クリエイティブ事業局長が語る『一気通貫』戦略



（株）フジテレビジョン
 執行役員クリエイティブ事業局長
大多 亮

1981年入社。ドラマプロデューサーとして「東京ラブストーリー」「101回目のプロポーズ」など数々のヒット番組を手がける。デジタルコンテンツ局を経て、2010年6月、クリエイティブ事業局長（現任）。

● クリエイティブ事業局新設の目的は？

デジタルコンテンツ局とライツ開発局の統合で組織の無駄が省かれ、コミュニケーションが良くなっていますが、最大の目的は我々の持つコンテンツを、DVD、ペイTV、ネット配信、SNS、MD（物販）など幅広い事業で「一気通貫」し、圧倒的なシナジー効果を生み出すことです。

● 具体的には、どういう取組みがなされていますか？

10月から、アイドルグループ「アイドリッシュ!!!」を、年末には人気番組の続編「あいのり2」を大々的にブッシュしています。

また、来年1月には日本初のデジタル3D連続ドラマ「TOKYOコントロール」を、ペイTVでスタートさせます。これらが様々なデバイスで同時多発的にブレイクし、ビッグビジネスになることを期待しています。

また、つばやきサービス「イマつぶ」は、「海猿」や「医

龍3」「めっちゃイケてるッ！」等との連動で、飛躍的に会員数を伸ばしています。視聴者のつばやきが番組に反映される仕掛けは、我々にしか出来ないインタラクティブなサービスであり、新しいソーシャルメディアビジネスに成長すると確信しています。

● 今後の成長戦略を教えてください。

オリジナルコンテンツとともに大切なのは、何とんでも地上波の力をいかすことです。そのために、DVD販売とオンデマンド配信の部門を一体化し、番組の二次利用を効率化しました。キャンペーン企画「ワンコイン祭」などの効果もあって配信事業（フジテレビ On Demand）は黒字化しています。こういった二次利用で収益の基礎を固め、その上に「一気通貫」のオリジナルコンテンツを積み上げる。これが我々の強みです。「ストロングコンテンツ is キング!」を合言葉にがんばります。

2 荒井担当局長に聞く、フジテレビのグローバル展開 海外市場を見据えたコンテンツ制作と権利ビジネスの強化へ！

● 編成開発部が新設された狙いは？

コンテンツの海外市場は、欧米に加え、中国の規制緩和や新興国の経済発展により、アジア圏で急速に拡大しています。このような環境の中、フジテレビが誇る高いコンテンツ制作力を生かし、より機動的に海外進出に向けた取り組みを推進するため、社内に分散していた海外向けコンテンツ関連の機能が編成制作局傘下に編成開発部として統合されました。

フジテレビは、これまでいち早く海外市場への進出を果たし、アメリカでの「料理の鉄人」のヒット、「脳カベ」の40ヶ国以上へのフォーマット（企画やコンセプト）セールスなど大きな実績を上げてきました。

今後も、欧米はもちろん中国を中心に拡大するアジア市場も視野に入れ、番組・フォーマットセールスの一層の充実を図ります。

さらに、フジテレビの制作力をいかしながら、海外プロダクションとの連携を進め、国際市場

を見据えたコンテンツ企画・制作を行っています。

● 現在進行中の計画・今後の展望は？

世界最大級の制作会社であり世界的販売網を持つ英国フリーマントル社と、人材交流を含めた提携をし、第一弾として「トータルブランクアウト」というバラエティ番組フォーマットを共同制作、すでに北欧3カ国へのセールスが成立しました。

中国市場では、共同投資・制作による「101回目のプロポーズ」の映画化、「ひとつ屋根の下」のドラマリメイクなどが進行しています。

また、10月に行われた国際番組見本市「MIPCOM 2010」では、新作バラエティ番組を出展し、欧米・アジアの各局から強い関心が寄せられました。

国内で培ったフジテレビのコンテンツ制作力の強みをグローバルマーケットでもいかし、フジテレビが得意とする若者文化のムーブメントを全世界に広めたいと考えています。



（株）フジテレビジョン
 編成制作局担当局長 兼 編成開発部長
荒井 昭博

1985年入社。「笑っていいとも!」「SMAP×SMAP」など数々のバラエティヒット番組を手がける。2007年に編成部長に就任。2010年6月、編成制作局担当局長兼編成開発部長（現任）。



(株)フジ・メディア・ホールディングスではCSRを、当社及びグループ各社の持続的な成長を確保するための活動と位置づけています。そのため、フジ・メディア・ホールディングスCSR推進連絡会議を定期的開催し、グループ各社のCSR情報を共有するとともに、共通のテーマを設けて活動しています。

食育プロジェクト「いっぽんどっこの会」各地で展開中!



「どっこくん」大好き! 元気に体操する子供たち

グループ各社が協働で推進している食育プロジェクト「いっぽんどっこの会」が、本格始動! 各地の幼稚園などで歌あり体操ありの楽しい食育イベントを開催中です。オリジナル曲「ハロー! どっこくん」の作詞作曲はフジテレビ社員。歌唱は石本沙織アナ。曲にあわせて、アトラントオリンピック日本代表の田中光さんにオリジナル体操を考案していただきました。「どっこくん」とは健康なうんちを象徴するオリジナルキャラクターで、イベントではフジテレビアナウンサーがどっこくんの冒険物語を朗読し、子どもたちに食と排便の重要性を教えます。私たちはこのプロジェクトを次世代に向けての重要な社会貢献活動と位置づけ、今後も継続的に展開していきます。



「どっこくん」

ホームページでも情報公開中!



フジ・メディア・ホールディングス

検索



最新のIR情報をはじめ、CSR活動への取り組み等、当社の様々な情報をご覧いただけます。

www.fujimediahd.co.jp

07 会社概況 (平成22年9月30日現在)



会社概要

会社名	株式会社フジ・メディア・ホールディングス (FUJI MEDIA HOLDINGS, INC.)
事業内容	認定放送持株会社
設立	昭和32(1957)年11月18日
決算期	3月31日
資本金	1,462億35万円
連結従業員数	5,958名
本社	〒137-8088 東京都港区台場二丁目4番8号

役員

代表取締役会長	日枝久	取締役	石黒大	山
代表取締役社長	豊田皓	取締役	横田雅	文
専務取締役	太田英昭	取締役	寺崎一雄	
常務取締役	嘉納修治	取締役	清原武彦	
常務取締役	飯島一暢	常勤監査役	尾上規喜	
取締役	遠藤龍之介	常勤監査役	瀬田宏	
取締役	鈴木克明	監査役	茂木友三郎	
取締役	稲木甲二	監査役	南直哉	
取締役	松岡功博	監査役	奥島孝康	
取締役	三木明博			

株主優待のお知らせ

株主優待として、フジ・メディア・ホールディングス オリジナル手帳を同封いたしました。手帳の巻末にはディノスとセシールの優待クーポンが印刷されておりますので、是非ご利用ください!



対象株主 毎年9月30日の最終の株主名簿に記載又は記録された1株以上を保有する株主様

裏表紙の「はちたま見学パスポート」もご利用ください!

株式の状況

発行可能株式総数	9,000,000株
発行済株式の総数	2,364,298株
株主数	70,587名

(注)発行済株式の総数には自己株式及び放送法に基づき名義書換を拒否した株式(外国人持株調整株式)が含まれております。

大株主

株主名	持株数(株)	比率(%)
東宝株式会社	183,221	7.75
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	143,900	6.09
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	128,544	5.44
シービーニューヨークオービスファンズ	96,798	4.09
株式会社文化放送	77,920	3.30
株式会社エヌ・ティ・ティ・ドコモ	77,000	3.26
関西テレビ放送株式会社	54,461	2.30
シービーニューヨーク オービス エアインシアアヴィー	49,907	2.11
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (退職給付信託口・株式会社電通口)	46,500	1.97
株式会社ヤクルト本社	39,690	1.68

(注)上記のほか、当社所有の自己株式61,202株があります。

所有者別株式分布状況

株主数

政府及び地方公共団体	1名	(0.0%)
金融機関	119名	(0.2%)
金融商品取引業者	41名	(0.1%)
その他の法人	522名	(0.7%)
外国法人等	466名	(0.7%)
個人その他	69,438名	(98.4%)

株式数

政府及び地方公共団体	2株	(0.0%)
金融機関	593,996株	(25.1%)
金融商品取引業者	43,583株	(1.8%)
その他の法人	731,200株	(30.9%)
外国法人等	460,619株	(19.5%)
個人その他	534,898株	(22.6%)

注1
参照

注2
参照

注3
参照

(注1)「その他の法人」には、証券保管振替機構(失念株式)名義の株式が403株含まれております。

(注2)放送法で定める外国人等の有する議決権数の当社議決権総数に占める割合は19.99%です。

(注3)「個人その他」には、自己株式61,202株及び放送法に基づき名義書換を拒否した株式(外国人持株調整株式)121,377株が含まれております。

(注4)比率は小数第2位を四捨五入しております。

株主メモ

事業年度	4月1日～3月31日
配当金受領の株主確定日	3月31日及び中間配当を行う場合は9月30日
定時株主総会	6月下旬
株主名簿管理人及び特別口座の口座管理機関	東京都中央区八重洲1丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
事務取扱場所	東京都中央区八重洲1丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
公告の方法	産業経済新聞に掲載します。

外国人等の株主名簿への記載・記録の制限等

当社は、放送法で定める外国人等(①日本の国籍を有しない人、②外国政府又はその代表者、③外国の法人又は団体、④「①から③までに掲げる者」により直接に占められる議決権の割合が総務省令で定める割合以上である法人又は団体)の有する議決権について、①から③までに掲げる者により直接に占められる議決権の割合とこれらの者により④に掲げる者を通じて間接に占められる議決権の割合として総務省令で定める割合とを合計した割合が、議決権の20%以上となる場合には、放送法の規定により、認定放送持株会社の認定が取り消されることとなります。そのため、このような状態に至るときには、放送法の規定に基づき、外国人等からの株式の名義書換請求等による株主名簿への記載・記録を拒否し、又は、外国人等の議決権行使を制限することができるとされています。

お知らせ

●配当金計算書について

1. 配当金を配当金領収証にてお受取りの株主様へ

平成22年にお支払いした配当金(平成22年3月期末配当及び同9月中旬配当)について確定申告を行う場合は、配当金領収証に同封いたしました「配当金計算書」が添付書類となります。

注)「配当金計算書」は、租税特別措置法上の「支払通知書」を兼ねた書類ですので、確定申告の際にご利用いただけます。

2. 配当金の受取方法として、口座振込を指定されている株主様へ

同様に確定申告を行う場合は、同封の「配当金計算書」が添付書類となります(従来どおり)。

3. 配当金の受取方法として、証券会社にて「株式数比例配分方式」を利用されている株主様へ

確定申告を行う際の添付書類等につきましては、お手数ですがお取引の証券会社にお問合せください。

株式に関するお手持

●株式に関する各種お手持(住所変更、配当金受領方法の指定など)は、株主様が口座を開設されている証券会社にてお取扱いしております。詳しくは、お取引の証券会社にお問合せください(ただし、郵送物等の発送と返戻に関するご照会と株式事務に関する一般的なお問合せは、株主名簿管理人：下記フリーダイヤルにお問合せください)。

●株券電子化実施前に証券保管振替制度を利用されていなかった株主様の株式につきましては、「特別口座」で管理されております。「特別口座」に関する各種お手持(証券会社の口座への振替、住所変更、配当金受領方法の指定など)は、従来どおり、みずほ信託銀行株式会社にてお取扱いいたします(同行各支店においても取次ぎを受け付けます)。

なお、「特別口座」の詳細につきましては、下記のフリーダイヤルにお問合せください。

 0120-288-324

●未払配当金の取次ぎにつきましては、「みずほ信託銀行株式会社全国各支店」又は「みずほインベスターズ証券株式会社本店及び全国各支店」においても受け付けます。